



今日は! HOLAI!

日系人のアイデンティティ

理学研究科
博士課程後期三年

ディアナ・イトウ



PROFILE

ペルー国出身。
カトリカ大学理工学部卒業。
一九八六年に来日し、現在、天然有機化学研究室で研究中。
昨年日本人と結婚。
趣味はピアノと音楽鑑賞。

ペルーにおける日系人の生い立ち

私が国費留学生として広島へ来たのが七年前であった。広島で学べるということは私にとっては特別な意味があった。それは、広島は私の祖先の故郷であるということだった。

約六十年前、祖父母は日本を離れてはるかペルーへと渡った。多民族国家であるペルーの社会はインディオや白人をはじめ様々な人種により構成され、日系人、つまり日本人の血を引き継いでいる人々もその一つである。祖父母のように、日本人がペルーへと移住し始めたのは一八九九年のことであり、南米では最も古い歴史をもっている。

移民の人々は、外国で稼いで小金をためて故郷に帰るという目的があったため、ペルーの社会に溶け込もうとはしなかった。しかし、第二次世界大戦後、敗戦により日本が焼の原になったことを知り、帰国しても仕方がないと考えるようになった。そして、初めて

日系人とペルー社会との関係

一世の時代には、自分たちは元々日本人なのだという意識が強かったため、「ペルー」との間の明確な境界を形成していたのである。しかし、世代交代が進み二世、三世が中心世代となると、次第にその境界がなくなりはじめた。そして現在は、混血化などが進み、ペルーへの同化が意識的なものから自然の流れによるものへと変わりつつある。

アイデンティティ

私はこのような日系社会の中で生まれ育つたため、幼い頃から自分は日本という国を身近に感じ、日本に対するある種のあこがれを抱くようになった。そして、ついに留学という形で日本を訪れることになった。



カトリカ大学の化学研究室にて (右から2番目…筆者)

人でもあるという意識を持たせていると思う。

社会にはすぐに受け入れられず、日本に馴染むまでかなりの時間がかかった。つまりペルーでは完全にペルー人であるとはされず、日本では当然日本人ではないとされた。しかし、言いかえれば、自分はペルー人でもあり日本人でもあるといえよう。

このようなコンフリクトを抱きながらも、日系人は二つの異なった文化を自分のものとし、日本は異国であり、

祖国でもある存在となってきた。その日本は現在、国際化を目指し、それに向かって全力を注いでいる。私は、双方のよき理解者となり、その過程に役立てたいと思う。

私がみた日本

経済学部
研究生

李 Li

文龍 Wen Long



PROFILE

私は、中国の瀋陽市で生まれました。一九八六年遼寧廣播電視大學経済学部(金融論専攻)を卒業し、一九九〇年から一九九二年四月まで遼寧大学で企業管理を勉強するとともに中国工商银行瀋陽市支店に勤務していました。
一九九二年四月に来日、一九九三年四月に研究生として広島大学に入りました。

一、日本の印象

私は日本へ来る前に、たくさん日本の本を紹介する本を見ました。その中で、日本は戦後急速な発展を遂げ、現在は経済大国であることを知りました。しかし、どうしてそのような経済発展を成し遂げることができたのか、また、日本人が実際にどのような生活をしているのか疑問に思いました。そこで、日本へ留学してそれを知りたかったのです。

実際に日本に来て思ったことは、日本人という民族の質が高いということです。ゴミを燃えるものと燃えないものに分け、それを決められた曜日に決められた場所へ出すということです。中国人は、ゴミを平気でどこへでも捨てます。

日本人には当たり前になっっているのかもしれないが、このような制度があり、また皆がそれを守っているということに驚きました。また、信号を守ることも中国では、信号は赤でも、車がぎていなければ、すぐにみんな渡ります。

このようなことから、社会で決められたルールを守っている日本人は、厳格な面を持っていると思いました。また、仕事にも一生懸命取り組み、国民の勤勉さを感じます。このような国民の特質が日本の経済を作り上げていったのではないかと思います。

二、広島印象

私は去年一年間福山YMCAビジネス専門学校で日本語を学んで来ました。ここでは、キャンプ、パーティーといっ

三、授業印象

た学校行事の他に地域の友達と知り合う機会がありました。福山には留学生が少なくないせいか、みなさんがとてもよくしてくれました。日本ではじめての生活で不安も多かったのですが、いろいろな人に助けられました。広島市は、福山市に比べると、ずっと規模的に大きく、その分いろいろな人がいると感じました。親切な人もいますが、心にゆとりがない人が多いように感じます。福山では友達がたくさんできましたが、広島では、今まだあまり友達ができませぬ。アパートのとなりの人さえ、毎日忙しいのか厳しい顔をしているので、友達になりにくいです。これから、友達を増やしていきたいです。



弥勒の里にて (左から4人目が筆者)

私は研究生として広島大学で勉強しております。指導教官の先生の授業は、いつも丁寧で、学生がわからない所があるとき、学生のためにたくさん資料を用意してくださってわかるまで教えていただきます。日本へきてまだ二年目なのですが、言葉の面でも、いろいろな人に助けていただいております。日本人の先生方は、とても丁寧に授業をしてくださると印象を受けます。私はそのようなことを、いつも心から感謝しております。

ニイハオ 你好 今日!